

石狩川流域委員会(第2回) 議事要旨

■日 時:平成 29 年 5 月 29 日(月)15:00~17:00

■場 所:開発局苗穂研修センター

■出席者:黒木委員長、中村副委員長、井上委員、上田委員、片石委員、清水委員、平澤委員、山田委員 (以上 8 名)

■議事要旨

(1)前回の流域委員会での意見について

- ・堤防の強化(危機管理型ハード対策)について、整備率を教えてください。どの程度整備が終わっているのか。また、決壊までの時間を引き伸ばすとのことだが、具体的にどの程度長くなるのか。(委員)
 - 危機管理型ハード対策整備率については、次回示したい。効果に関しては、国総研の実験により効果を確認しているが、土質等が多様な現地の堤防について、定量的に示すのは難しい。(事務局)
- ・今後、定量的な評価にむけて検討を進めるべき。(委員)

- ・流域タイムラインのイメージが不明瞭。これから作成するものなのか。(委員)
 - 流域タイムラインについては、これから作成予定。(事務局)

- ・堰に魚道等の整備が整っていない箇所は、適宜整備を進めてほしい。また、雨竜川はヤツメウナギの産卵場の可能性がある。今後の河川整備にあたり、産卵床の調査を行い、影響が少ない整備を実施してほしい。(委員)

- ・降雨と流出の関係について、ダム効果を示しているのか、残流域からの流出特性を示しているのか、資料が不明瞭。(委員)
 - 雨量と流量の関係を見ると、洪水によってあまり大きく違わなかった旨を整理しており、ダム効果までは整理していない。着目点などご指導いただきつつ、検討してまいりたい。(事務局)

- ・S63 の降雨の平面分布について、石狩沼田観測所では 400mm 以上の降雨が観測。それが分かるような整理をすべき。(委員)

- ・流木について、上流域ではダムが効果的。下流域は河畔性の樹木の繁茂抑制対策することで減らすことができるという解釈でよろしいか(委員)
 - その通りである。(事務局)
- ・沙流川の事例では山から川に出さないよう、管理者も協働するというので整理

が図られている。(委員長)

(2)石狩川水系雨竜川整備計画[変更]について

- ・雨竜第1ダムに関して、現行では予備放流水位以上の容量をどのように利用しており、今後、どのように取り扱うのか。操作ルール等を変更するのか。(委員)
→現行は、利水ダムとして遅らせ操作を実施。活用案では、操作ルールの見直し含め、効率的な洪水調節のため、治水容量として活用したい。(事務局)
- ・H26.8洪水について、雨竜ダムでの対応は。(委員)
→H26.8洪水では予備放流水位よりも低い水位から洪水調節していた。現在は、下流に影響を及ぼさないよう、遅れて放流する操作。変更後はピークカットによる洪水調節に変わることを想定。(事務局)
- ・第1ダムは嵩上げしないのか(委員長)。
→第1ダムを嵩上げすると、土堰堤等の改築や、集落への影響が生じることから、社会的影響や経済性を考えて第2ダムのみの嵩上げとしている。(事務局)
- ・河道掘削に関しては、掘削土量が示されている。一方、ダムの嵩上げ諸元等は今後検討ということであり、検討の熟度が異なるのではないか(委員)
→ダムの諸元等は今後の具体的な調査・検討により定まるものであるが、現時点では2m程度の嵩上げを想定している。(事務局)
- ・洪水の違いでカバーできない部分はないのか。(委員)
→S56.8とH26.8でより大きな流量を採用している。S63についても超過洪水対応として、危機管理型ハード対策などで対応するものと考えている。(事務局)
- ・ダム有り無しで上流部300m³/s、中流部400m³/sの差がある。下流に行くにつれてダム効果は薄れていくものではないか?(委員長)
→100m³/s単位で整理していることによる。(事務局)
- ・掘削案における掘削残土は450万m³とのことだが、目標流量を100m³/s上げない場合は、どの程度の土量になるのか。(委員長)
→約400万m³弱。(事務局)
- ・雨竜川沿いは平野も少なく、残土処理費が相当程度要することになる。(委員長)

- ・河川整備の目標について、農業に関連する他の産業への影響も相当あると考えられる。今後、ダムの活用に投資する際に、関連産業への影響・効果についても検討しないのか(委員)
→重要な指標になると考えている。(事務局)
- ・中流部に鷹泊ダムという農業ダムがあり、下流に効果があると思料。この嵩上げは考えないのか。(委員)
→農業ダムでも放流量を流入量と同じ操作としていると聞いている。既設ダムの有効活用については、今後、検討していきたい。(事務局)
- ・変更案の文章は、今回で確定されるのか。(委員)
- ・この原案で住民意見を聴き、本委員会での意見も反映した修正案について、もう1度、ご説明いただける予定である。地域への説明会は行うのか。(委員長)
→開催する予定。(事務局)
- ・道立公園にも位置しており、環境影響についても粗々でも現時点の整理しておく必要があると思料。(委員)
- ・整備計画書 P37 に河道の安定化を図るという記載について、もともと安定していない河道を安定させようとする、樹林化したりする。「安定化」させるという言葉が必ずしも良い表現なのか、考え直したほうが良いのではないか(委員)
→「局所的な深掘れや河岸侵食により、災害発生のおそれがある箇所については、」としている。(事務局)

(3)その他

- ・今後のスケジュールについては、住民等から意見を踏まえて、修正を行い、次回委員会でご報告する。(事務局)

以上